

2021年度 公益財団法人日本バレーボール協会 審判規則委員会 指針

2021年度審判規則委員会は、以下の5項目を指針とし、各事業を推進する。

- 1 審判員は、国内競技会及び国際競技会をスムーズに運営するために必要な事前講習会に参加して審判員としての質の向上を図る。審判員の技術のレベルアップがバレーボールの競技力向上になることを忘れてはならない。
- 2 各種別において判定基準の統一を図り、安定した審判技術とメンタル面の強化に努める。また、試合中の選手やチームスタッフの言動に対しては、バレーボールとしてのインテグリティが保てるようにルールを的確に適用し、公平・公正な競技運営を行う。
- 3 選手・指導者を対象に、ルール及び取扱いについての周知・徹底を図り、正しい理解とルール遵守を醸成する。
- 4 各ブロックと連携して、A級審判員資格取得講習会や審判育成事業等を通して、次世代を担う若手審判員の育成を努める。また、男女共同参画をさらに進めるため、特に各カテゴリー・各都道府県にも女性審判員の活動の支援を推進する。加えて子育て世代の女性レフェリーが活躍できる環境整備を推進する。
- 5 コロナ禍における感染症対策において2020年度の状況をふまえ、今後の感染状況を見据えながら、安心・安全を第一に、大会運営ができるようにする。

指導部：1 審判員の技術の向上を目指し、A級審判員にカテゴリーを設け、映像等も有効に活用しながら、レベルに応じスキルアップのための技術強化事業を推進する。
2 審判員の責務として、選手・指導者に対しルールはもとより、ルールの改・修正点や取扱い等を正確に伝達しルールの理解を深め、スムーズな大会運営だけでなく競技力の向上に資する。
3 各ブロックとの連携をしながら、A級審判員だけでなく幅広く公認審判員、特に若手審判員の育成事業を実施し、裾野の拡大を図る。
4 女性審判員については各世代のライフスタイルに合わせ、安心して審判活動に取り組める環境整備とともに強化事業を推進する。

規則部：見易く正確で分かりやすいルールブックの作成を目指し、4種別のケースブックの編集を行う。6人制と2人制はFIVBからの最新情報を収集し、必要に応じて改正・修正を行う。また、9人制についても競技の活性化を図るために、親しみやすいバレーボールを目指し、そのルールの研究を進める。

登録部：JVAメンバー制度(MRS)に従って、公認審判員のMRS登録の増加を目指して早期登録手続きの完了と公認審判員の現状把握を行う。

以上

2020年3月20日

『2020年度 指導部の目標と6人制の重点指導項目』

JVA大会運営事業本部 審判規則委員会 指導部

1 目 標

- (1) 審判員は、競技規則を理解するだけでなく、正確に適用する。
- (2) 審判員は、ホイッスルやハンドシグナルを大切にし、基本的な動きや位置取り、手続きを確実に行う。
- (3) 審判員は、向上心を持ち、日頃から信頼されるよう多くの経験を積む努力をする。

2 重点指導項目

【主 審】

- (1) 不法な行為について
 - ・参加競技者の不法な行為に対しては、毅然とした態度で競技規則を適用する。
 - ・軽度な不法行為を見逃すことなく、早い段階でステージ1を与える。
- (2) ハンドリング基準について
 - ・クリニック等で基準の確認を行い、すべての審判員が統一できるようにする。
 - ・ラリーを継続するという理由で基準を下げない。
 - ・シングルハンドトスの反則の多くはキャッチの場合が多い。ただボールが回転したからといって反則にすべきではないが、反則が起こらないということではない。
- (3) サービス許可について
 - ・両チームがプレーをする準備ができ、サーバーがボールを持っていることを確認した後にサービスを許可する。
- (4) 最終判定の出し方について
 - ・ホイッスルをした後に、必要なラインジャッジと副審を確認し、最終判定を出す。

【副 審】

- (1) 不法な行為について
 - ・ネット際やベンチ等で、主審が気づかない不法な行為があれば主審に伝える。
- (2) ポジションの反則について
 - ・サービスヒットの前に移動したり、明らかに入れ代っているなどを見逃さない。
 - ・常に確認することを怠らない。反則があれば、試合の早い段階で反則とする。
- (3) タッチネットについて
 - ・選手がネット際でボールをプレーする動作中、ボールを追わずにネット際に目を残し判定をする。
- (4) サービスヒット後について
 - ・サービスヒット後、サービスボールが副審側の許容空間外側を通過するか、あるいはアンテナに触れるかを判定するために素早くネット上方に視線を移す。

(5) 中断の要求について

- ・ゲームの流れを読むとともに、ワンラリー毎にベンチコントロールを行う。
- ・最終セットのチェンジコート後は、ポジションの確認をした後にリベロリプレイスメントや中断の要求を認める。
- ・選手交代の手続きを十分理解し、複数の交代、両チーム同時のケースについてスムーズに行えるようにする。
- ・タイムアウト（テクニカルタイムアウト）後、コートに入ることが遅い場合、ホイッスルとシグナルで促す。繰り返す場合は遅延の罰則を適用するよう進言する。

【スコアラー】

- (1) サービス順の確認、得点の確認をしながら、正確に記録をつける。疑わしいときは試合を止め、アシスタントスコアラー等に確認をしてミスの無いようにする。
(JVIMSがある場合は、その情報も参考にする)
- (2) ブザーがある場合、セット間終了はブザーで合図する。
- (3) 選手交代は確実に選手番号（または○印）とその時の得点を記入する。
 - ・チームが複数の選手交代の要求をした場合は、最初に1度だけブザーを鳴らす。
 - ・同時に両チームから選手交代の要求があった場合は、片方のチームの選手交代を完了させた後、再度ブザーを鳴らしてからもう一方のチームの選手交代を行う。
- (4) 記載ミスをした場合は、二重線で消す。主審と副審が確認したときに誤りがあったときは、スコアラーが修正する。
- (5) 予備の記録用紙を準備する。

【アシスタントスコアラー】

- (1) スコアラーと声を掛け合って、交代選手の番号や得点を確認し合う。
- (2) 不法なリベロリプレイスメントがあれば、サービス許可のホイッスルのあと、すぐにブザーを鳴らす。
- (3) タイムアウト、テクニカルタイムアウト中は、リベロの位置を副審に通告する。リベロが2人のチームの場合、リベロがコートにいるときは番号も副審に通告する。
- (4) スコアボードの得点が正しいか確認する。
- (5) テクニカルタイムアウトの開始と終了を通告する。
- (6) 予備のリベロコントロールシートを準備する。

【ラインジャッジ】

- (1) 担当するラインの判定を確実に行う。ボールコンタクトは、確実に見えた場合に限りフラッグシグナルを示す。
- (2) アンテナに関わる判定方法やボールを取り戻す場合の判定方法を確認し、試合に臨む。

2020年度 6人制ルールの取り扱いについて

2020, 3, 20

1 競技参加者の行為 (PARTICIPANTS' CONDUCT) に関する事項

20.1 スポーツマンにふさわしい行為 (SPORTSMANLIKE CONDUCT)

20.1.1 競技参加者は、公式バレーボール規則に通じていなければならない。また、それを忠実に守らなければいけない。

20.2 フェアプレー (FAIR PLAY)

20.2.1 競技参加者は、審判員だけでなく、他の役員、相手チーム、チームメイト、さらに観衆に対しても、フェアプレーの精神で敬意を示し、礼儀正しく行動しなければならない。

(注)

- 1 主審の判定に対するゲームキャプテンの質問は受け入れるが、その内容がルールの取り扱い等に関する質問ではなく、判定に対する抗議や意見を述べる等の場合やゲームキャプテン以外の選手が質問に来た場合は、拒否する。
- 2 競技参加者が、規則 20 に反した場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、反則が科せられる。
- 3 競技参加者が、審判員に向かって判定に対して執拗に抗議するような態度をとった場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、反則が科せられる。

【主にステージ 1 に該当するケース】

- ①主審が最終判定を出した後も審判員に不満を示す態度や言葉を発した場合。
- ②主審がゲームキャプテンの質問に答えた後にも、さらに論争を長引かせるようにした場合。
- ③ゲームキャプテンの質問の内容が規則の適用や解釈でない場合。
- ④一度指導されているのに、再びゲームキャプテン以外の選手が判定に対して質問をした場合。
- ⑤ネット越しに相手の選手などに対して、馬鹿にしたり威嚇をしたりする行為があった場合。

【主にステージ 2 に該当するケース (直接イエローカードを出すケース)】

- ①主副審やラインジャッジの判定に対して執拗な抗議や威嚇的な態度を示した場合。
 - ②主副審やラインジャッジの判定に対して、ベンチスタッフや控えの選手がベンチから飛び出して判定に異議を訴えた場合。
- 4 監督が副審やスコアラーに話しかけることができるのは、リベロの再指名の時や得点が正しくない時などの声かけ程度のものであり、説明を求めたり、長く話しかけるようなことはできない。
 - 5 試合終了後、監督・主審・副審はフェアプレーの精神でお互いに「握手」を交わす。

2 チームリーダー (TEAM LEADERS) に関する事項

5.2 監督 (COACH)

5.2.1 監督は、試合を通して、コートの外からチームのプレーを指揮する。

(注)

1 監督の指示

監督が、試合中、自チームベンチ前のフリーゾーン内で、立ちながら歩きながら指示を出している場合、ラインジャッジ (特にL 2・L3) の判定の妨げにならないように審判員が注意する。

ラリー終了後、審判の判定に影響を及ぼす行為に対しては、直ちに罰則を適用する。

2 監督が試合に遅れて来た場合

- ① 遅れて来た監督は、ベンチに着席することができる。
- ② ゲームキャプテンは、監督が来たことをラリー間に審判へ口頭で伝える。
- ③ 監督が来たことを審判が確認したら、監督は権利を行使することができる。
- ④ 監督は、セット間もしくは試合終了後に記録用紙にサインする。

3 プレーの構造 (STRUCTURE OF PLAY) に関する事項

7.3 スターティングラインアップ (TEAM STARTING LINE-UP)

7.3.1 いかなるときも1チーム6人でプレーしなければならない。

チームのスターティングラインアップは、コート上の選手のローテーション順を示している。この順番は、そのセットを通じ維持しなければならない。

7.4 ポジション (POSITIONS)

サーバーによりボールが打たれた瞬間、両チームは (サーバーを除き) それぞれのコート内で、ローテーション順に位置していなければならない。

7.5 ポジションの反則 (POSITIONAL FAULT)

7.5.1 サーバーによりボールが打たれた瞬間に、いずれかの選手が正しいポジションにいない場合は、そのチームはポジションの反則をしたことになる。選手が不法な選手交代をしてコート上にいて、試合が再開された場合は、不法な選手交代によるポジションの反則とみなされる。(規則 7.3, 7.4, 15.9)

7.5.2 サーバーがサービスヒットの瞬間にサービスの反則をした場合には、ポジションの反則に先立つものとみなされ、サービスの反則と判定される。(規則 12.4, 12.7.1)

7.5.3 サービスヒット後にそのサービスが反則となった場合は、ポジションの反則となる。

(規則 12.7.2)

7.6 ローテーション (ROTATION)

7.6.1 ローテーション順は、チームのスターティングラインアップにより決められ、そのセットを通じ、サービス順と選手のポジションによりコントロールされる。

7.7 ローテーションの反則 (ROTATIONAL FAULT)

7.7.1 サービスが正しくローテーション順に行われなかったとき、ローテーションの反則となる。

その場合は次のような順序の結果となる：

7.7.1.1 スコアラーがブザーによって試合を止めた場合、相手チームに 1 点と次のサービスが与えられる。もしも、ローテーションの反則により始まったラリーが完了した後に、そのローテーションの反則が指摘された場合は、そのラリーの結果に関係なく、相手チームに 1 点だけが与えられる。(規則 6.1.3)

7.7.1.2 反則をしたチームのローテーション順は正しく直される。(規則 7.6.1)

(注)

1 セットの開始前、**ラインアップシートどおりに位置していない場合**

副審は、**ゲームキャプテンを呼び**、チームから提出されたラインアップシートを示し、選手のポジションの確認を行う。

2 セットの開始前、**ラインアップシートに記入されていない選手がコート上にいる場合**

①副審は、**ラインアップシートを監督に示し**、記入されていない選手がコート上にいることを告げ、どちらの選手がスターティングメンバーかを尋ねる。

②監督が、ラインアップシートに記入されていない選手をコートに残すことを要望する場合は、該当するハンドシグナルを示し正規の選手交代を要求する。副審は、ハンドシグナルを示しながらホイッスルをする。スコアラーは、正規の選手交代として記録をする。この際、ラインアップシートどおりの選手をコートに戻す必要はない。(コート上の選手は手を挙げる)

③監督が提出したラインアップシートどおりの選手をスターティングメンバーとすることを要望する場合は、その場で選手を入れ替えさせる。この場合には制裁はない。

④副審は、両チームのラインアップを確認後、主審にシグナルを示し、ゲームが開始される。

3 不法な選手交代によるポジションの反則やローテーションの反則により始まったラリーが完了した後にその反則が発見された場合は、ラリーの結果をキャンセルし相手チームに 1 点と次のサービスが与えられる。また、間違いがもっと遅い時点で発見され、間違いをした時点が明らかな場合は、発見されるまでに間違いのあったチームが得たすべての得点は取り消される。

4 チームがサーバーについて審判団より誤った情報を与えられ、そのセットが進行した後に誤りが発覚した場合、誤った情報が与えられた時点で両チームの状態を戻す。ただし、タイムアウト、テクニカルタイムアウト、罰則はそのまま有効とする。

5 サービスがヒットされた瞬間に、コート上の選手の足が相手コートに触れていた時は、ラリー中に選手が相手コートへ侵入する場合と同様に考える。(規則 11.2.2.1)

4 ネットの下からの相手コートへの侵入 (PENETRATION UNDER THE NET)

11.2.1 相手チームのプレーを妨害しない限り、ネットの下で相手空間に侵入してもよい。

(注)

- 1 選手が、レシーブのためにネット付近でスライディング等のプレーをした時に、誤って相手コートに入ってしまった場合、両足が完全に相手コート上の空間にあったとしても、足が相手コートに触れておらず、相手のプレーを妨害していなければ、反則とはみなさない。
- 2 選手が相手コートに侵入してコートが濡れて、危険な状況であると主審・副審が判断した場合は、直ちにラリーを止め、ノー・カウントとする。
- 3 選手が相手コートへ侵入し、プレーの妨害になったと主審・副審が判断した場合は、インターフェアの反則となる。

5 サービス (SERVICE) に関する事項

12.3 サービスの許可 (AUTHORIZATION OF THE SERVICE)

主審は、両チームがプレーする準備ができ、サーバーがボールを持っていることを確認した後に、サービスを許可する。

(注)

- 1 ラリー終了のホイッスルから次のサービス許可のホイッスルまでの時間を、およそ8秒のテンポで行う。
- 2 ラリー終了のホイッスルの後、選手交代やワイピングがない場合、およそ8秒が経過すればサーバーがサービスゾーンでボールを保持していることを確認し、サービス許可のホイッスルをする。
- 3 コート上に5人だけ、または7人の選手がいるときには、サービスのホイッスルの前にコート上の選手が6人になるように促す。もし、主審がそのことに気づかずにサービスのホイッスルをした場合、およびラリーが始まったり完了した場合、主審はそのことに気づいたら直ちに罰則無しにラリーをやり直さなければならない。

6 中断 (INTERRUPTIONS) に関する事項

15.11 不当な要求 (IMPROPER REQUESTS)

15.11.1 以下のような正規の試合中断の要求は、不当な要求である。

15.11.1.1 ラリー中、またはサービスのホイッスルと同時に、あるいはその後に要求すること。(規則 12.3)

15.11.1.2 要求する権利のないチームメンバーが要求すること。(規則 5.1.2.3, 5.2.3.3)

15.11.1.3 インプレー中の選手の負傷や病気の場合を除いて、同じチームが同じ中断中(次の

ラリーが完了する前)に2回目の選手交代を要求すること。(規則 15.2.2, 15.2.3)

15.11.1.4 タイムアウトと選手交代の許容回数を超えて要求すること。(規則 15.1)

15.11.2 試合での1回目の不当な要求は、試合に影響を与えず、試合の遅延にならなければ拒否される。罰則の適用を受けることはないが、記録用紙には記録される。

(規則 16.1)

15.11.3 同じチームが試合中に、さらに不当な要求をした場合は遅延行為とみなされる。

(規則 16.1.4)

(注)

- 1 正規の試合中断の要求に関して、**チームが不当な要求で拒否された後、その中断中に同じチームによる同じ試合中断の要求は認められないが、違う種類の中断の要求は認められる。**ただし、15.11.1.1の不当な要求については、サービスの実行が優先され、試合中断の要求はすべて認められない。
- 2 **正規の試合中断の要求に関して、チームが遅延警告を受けた場合、同じチームによる試合中断の要求は、次のラリーが完了するまで認められない。**(けがや病気による選手交代を除いて)
- 3 5回の選手交代を終えた後に、2人の交代選手が選手交代ゾーンに入ってきた場合、副審は、監督に1組の選手交代だけが可能であることを伝え、**どちらの選手交代を行うかを尋ねなければならない。**そこに遅延がなければ、他の選手交代は不当な要求として拒否され、**記録用紙に記録される。**
- 4 2組の選手交代の要求があり、その中の1組は不法な選手交代であった。副審は1組の選手交代を認め、不法な選手交代は拒否し、チームに遅延の罰則を与える。
- 5 サービスのホイッスルと同時に、あるいはその後の中断の要求は拒否され、ラリー終了後、記録用紙に不当な要求として記載する。もしも副審がホイッスルした場合でも、特に試合を遅らせずに再開できる時には遅延とはせずにサービスのホイッスルを吹き直し、そのラリー終了後に不当な要求の処置を行う。
- 6 タイムアウト及びテクニカルタイムアウト中、選手やチームスタッフは自チームベンチ付近のフリーゾーンに位置する。

7 副審 (2nd REFEREE) に関する事項

24.3 責務 (RESPONSIBILITIES)

24.3.1 それぞれのセット開始時や最終セットのコートチェンジ時に、必要に応じてコート上の選手の位置がラインアップシートどおりであるかチェックする。

(注)

- 1 **最終セットのチェンジコート後のポジションの確認について、副審は、両チームの全ての選手のポジションを確認する。**もしポジションが間違っていた場合は、ゲームキャプテンに確認をする。その後リベロリプレイスメントや中断の要求を認める。

2021年度 6人制ルールの取り扱いについて【追加事項】

1 ボールをプレーすること (PLAYING THE BALL) に関する事項

9.1 チームのヒット (TEAM HITS)

ヒットとは、インプレー中の選手によるボールへの接触である。

(注)

- 1 インプレー中の選手長い髪の毛がボールに触れても、ヒット (ボールへの接触) と判断しない。したがって、相手のアタックヒットがブロックやレシーブ時に髪の毛に触れてもボールコンタクトと判定しない。また、ラリー中に起こる同様のケースも許容回数に含めない。

2 リベロ (THE LIBERO PLAYER) に関する事項

19.3 リベロに関する動作 (ACTION INVOLVING THE LIBERO)

19.3.2.9 不法なリベロリプレイメントが次のラリーの開始前に発見された場合は、審判員より正しく直され、チームには遅延行為に対する罰則が適用される。

不法なリベロリプレイメントがサービスヒットの後に発見された場合は、不法な選手交代と同じ処置がされる。

(注)

- 1 アシスタントスコアラーは、サービス許可のホイッスル後からサービスのヒットの前にブザーを鳴らし指摘し、チームには遅延の罰則が適用される。この時のリベロリプレイメントは認められない。ただし、リベロがポジション4に残らなければいけない場合は、リベロリプレイメントは認められる。

6人制ルールの取り扱いについて 【再確認】

※注釈のみを掲載しました。詳しくはルールブックを参照してください。

7.3 スターティングラインアップ 【2002】

スターティングラインアップについて、両チームのラインアップをスコアラーがスコアシートに記入し終わったら、チームはラインアップを訂正することはできない。提出した後でそのセットが始まる前に、スターティングラインアップの選手が負傷した場合でも、原則として変更を認めず正規の選手交代の手続きをする。

15.3 正式な試合中断の要求 【2015】

何らかの理由でラリーがやり直しとなった場合（ダブルフォルト・ノーカウント）は、ラリーの完了としない。したがって、両チームからの正規の試合中断やリベロリプレイメントは認められない。ただし、選手の負傷や病気によりラリーを止めた場合は、その選手の選手交代やリベロリプレイメントは認められる。

※ブザー 【2015】

ラリー中、ブザーが鳴ったときの対応について

- ① スコアラーからのブザーか、ベンチからのブザーかを確認する。
- ② スコアラーからのブザーであれば、ホイッスルしてラリーを止め、内容を確認して判定する。
- ③ ベンチからのブザーであれば、ラリーを続け、ラリーが終了した時点で、「なぜ鳴ったか」「意図的かどうか」を確認し対応する。
- ④ ベンチからのブザーはあくまでも予鈴で、ブザーでラリーを止めることはしない。ラリーを止めるのはホイッスルである。

15.5 選手交代 【2010】

ナンバーパドルおよびブザーを使用しないときの基本的な手順は下記の通りである。

- ① 交代選手がサブスティテューションゾーンに入ったら、副審が吹笛しハンドシグナルを示す。
- ② 副審は、ポールのそばで選手交代をコントロールする。
- ③ 副審は、交代選手の方を向き、選手をサイドライン上に止まらせる。
- ④ 副審は、コート内の交代する選手に手を上げさせる。
- ⑤ スコアラーは交代できることを確認できれば、軽く手を挙げて合図を送る。交代できない場合は手を振る。
- ⑥ 副審は、スコアラーを確認し、手で合図をして選手を交代させる。
- ⑦ スコアラーはスコアシートに記入し、完了したら両手を上げる。
- ⑧ 複数の選手交代の場合は、1組ずつ③から⑦の手順を同様に行う。
- ⑨ 副審はスコアラーを確認し、完了を主審に知らせる。

19.4 新しいリベロの再指名 【2011】

- ① チームに登録されているリベロ（1人もしくは2人）すべてが、負傷、病気、退場、失格、あるいは**いかなる理由**であってもプレーをすることができないと宣言されたとき、監督（監督不在の場合はゲームキャプテン）はその時点でコート上にいない他の選手（リベロと入れ替わった選手を除く）を、その試合の終了までリベロとして再指名することができる。
 - ◆リベロがコート上にいるときでも再指名することができる
 - ◆交代が遅れたり、準備ができていない場合は、拒否され遅延の罰則が適用される。
- ② 再指名された選手（リベロ）は、ビブスを着るか、アクティngrリベロと同じユニフォームを着る。しかし、番号は自身と同じものを付ける。
- ③ ビブスは各チームで準備する。

※リベロに関する国内での特別な取り扱い 【2011】

1チームが7人（リベロが1人）、8人（リベロが2人）の場合、1名の選手が負傷や病気によりプレーの続行が不可能になった場合は、リベロを加えて6名の選手にして競技を続行することができる。ただし、7人（リベロが1人）の場合は、ユニフォームはリベロのユニフォームのままで競技することができるが、8人（リベロが2人）の場合は選手と同じユニフォームに着替えるか、ビブスをつけるなどで**リベロとわかるように**しなければならない。なお、負傷や病気となった選手はその試合、コートに戻ることはできない。

21 **不法な行為とその罰則** 【2014】

- ① 1回目の軽度の不法な行為があった場合は、ステージ1として処置する。ステージ1の警告は、チームに対して行い、**ゲームキャプテンを呼んで口頭で警告**を行う。この警告は1度限りである。記録用紙には記載しない。また、軽度の不法な行為の程度によっては、1回目であってもステージ2から適用される場合がある。
- ② チームの2度目の軽度の不法な行為については、イエローカードを示し、スコアシートに記載される。

主審は、軽度の不法な行為を行った選手を呼び、イエローカードを示し警告する。このイエローカードはチームに対して試合を通して1回だけである。したがって、その後同チームのどの選手でも、再度、軽度の不法な行為を行った場合は、レッドカードを示し反則とする。

(例)	軽度の不法な行為	1回目	⇒	同2回目	⇒	3回目	⇒	同4回目
選手	No. 5		⇒	No. 6	⇒	No. 7	⇒	No. 8
処置	口頭に警告		⇒	イエローカード	⇒	レッドカード	⇒	レッドカード
- ③ チームに先に反則・退場・失格の罰則を適用した後に、同じチームが軽度の不法な行為を行った場合は、口頭での警告は行わず、上記の**ステージ2**から始まり処置を行う。

(例)

不法な行為	⇒	軽度の不法な行為	1回目	⇒	同2回目	⇒	同4回目
選手	No. 5	⇒	No. 6	⇒	No. 7	⇒	No. 8
処置	レッドカード	⇒	イエローカード	⇒	レッドカード	⇒	レッドカード
- ④ セットの最終ポイント決定後の不法な行為に対する処置は、その時点で行い、直後のセット開始時に罰則を適用する。